

## まとめ

- 相談員として思うこと（配意・配慮していること）
  - ・ 常に視線は支援対象者と同じに（特に言葉遣い）
  - ・ 何事も押し付けにならないように（心の閉ざしを懸念）
  - ・ 相互の距離感（これが一番難しい・自立更生を可能に）
  - ・ 先例のない取組（チャレンジ）⇒社会の理解と協力が必須
  - ・ **寄り添い**ながら種々の事柄に選択肢を共に考え、最後は自発的に決断・実行（コミュニケーション(ライン仲間))  
してもらう

11月11日(金)



お疲れ様です。ちゃんと料理して食べてることをお見せします。(ここ一番良く出来た為(笑))

午後7:07



午後7:08



既読  
午後8:24



こんな感じで毎日食べてます!

午後8:24



相談員としての役割とは（私見であるが）

**寄り添い型の相談員の役割**とは少なくとも彼らが安住できるようになるまで、衣食住だけでなく、ルール（社会的）に従いながらも自分の主体性や自律性が尊重された環境の中で、少なくとも彼らが満足を実感（安心であると認識）できるまでの期間は、**寛容さ（これが大事）**と**丁寧さ（これも難しい）**をもって見守ることに尽きるのではないかと考えています。



NHKTVで紹介された  
かがやきホームの取組について

「あせらず」「あきらめず」「くさらず」

をモットーに日々の生活を送り

**笑顔の花**を一杯咲かせてほしい

ご清聴ありがとうございました